

# 宿縁

八月号

浄土真宗  
本願寺派

## 中原寺

### 如来の本願が 私に变革を与える



日本だけではなく、世界各地で命にかかわる危険な酷暑とされる中、どうぞ皆さまはくれぐれもお体を大切にしてください。

異常な高温の原因は明らかに地球沸騰化の進行といわれていますが、特に人間のもたらす果てしなき欲望、これが物質文明を増やし地球環境を破壊していることは間違いありません。

文明とは、生活を豊かにするもの、特に物質的なものですが、学問、音楽、宗教などは精神的な生活にかかわるもので、文化といいま

す。そこで健全な学問、芸術、宗教に私たちは真剣に向き合う必要があります。

真理(さとりに)目覚めてブツダ(仏)となられた釈尊は、その真理のことばを語り、その仏のことばがお経となつて今に伝えられました。その言葉はみなこの私一人に向かって語られています。

その仏のことばを聞きましよう。

「ほとけの智慧はあらゆる人々の心をおし、光を与え、人びとにこの世の意味、盛衰、因果の道理を明らかに知らせる。まことに仏の智慧によつてのみ、人びとはよくこの世のことを知る。」

「人びとに病のあるときには医師となつて薬を施して教えを説き、戦いが起これば正しい教えを説いて災いを離れさせ、固定的な考えにとらわれている者には、無常の道理を説き、自我と誇りにこだわっている者には無我を説き、世俗的悦楽の網にとらわれているものには世の痛ましいありさまを明らかにする。」

こうしたブツダの言葉は少しも難しいこととは言っていないですね。人間は悲しいかな、どんな人も自分の姿が分かりません。勝手にわかつているつもりが永遠に苦悩から脱出できない理由なのです。

親鸞聖人はそれらのお経のなかで「仏説無量寿経」こそ、すべての人々を迷いから救い目覚めさせる唯一のお経と示してくだ

さいました。それは親鸞聖人独自の見解からではなく、国を超え民族を超えて仏の教えの真髓、真実を伝えてこられた方々(インド・中国・日本の七高僧)による体得、体験を通じたの確信です。それが次のお言葉です。

「その真実の教を頭せば、『無量寿経』である。この経の大意は、阿弥陀仏はすぐれた誓いをおこされて、広くすべての人々のために法門の蔵を開き、愚かな凡夫を哀れんで功德の宝(名号)を選び施され、釈尊はこの世にお出ましになり、仏の教えを説いて、人々を救い、まことの利益を恵みたいとお思いになったというものである。そこで、阿弥陀仏の本願を説くことをこの経のかなめとし、仏の名号をこの経の本質とするのである。」

(「教行信証」教巻)

ほとけのさとりに(真理)とは、その境地にすべての人々を平等に至らしめたいという「慈悲」のこころです。私たち人間にとつてそれを知る方法は形や言葉や名前やすがたによる手立てが必要で、このお経では阿弥陀仏の本願と南無阿弥陀仏という名号のはたらきがすべての生きとし生けるものの救いとして表現されます。ですから阿弥陀如来が存在するか、しないかというたずねかたではありません。

私たちの直面していく苦しみや憂いはあまりに厳しく、その大きな課題にぶつかると、押しつぶされてしまいます。私が積みあげ、私が整え、私の力で乗り越えようとする道は、現実の厳しい問題によつて、もろくもくずれてしまいます。その私という存在を見抜かれ、阿弥陀如来より私に回向してくださ

る名号(南無阿弥陀仏)においてのみ苦悩を超える道は開かれているのです。

この阿弥陀如来の本願成就を説かれた『無量寿経』を、親鸞聖人は「浄土和讃」の一首にこう詠まれています。

たとひ大千世界に  
みたらん火をもすぎゆきて  
仏の御名をきくひとは  
ながく不退にかなうなり

たとえ宇宙いっぱい満ちみちている苦しみや悩みの猛火、この宇宙全体がそれに包まれるようなことがあつても、そこに満ちみちている猛火を乗り越えて仏の御名を聞く人、つまり仏さまの救済意思を体得・体験する人は、再び苦しみの世界に転落しない。どういふふうか体験するかといえ、私たちは身近な人々のことば、あるいは行動の端々から、仏さまの救済意思を感じとるわけです。ですから仏の御名を聞くとは、別に耳でのみ聞きとるのではなく、心で受け取る。心で深くうなずく。それが本当に聞くということ。仏の御名を聞く大いなる救済意思を体験する人は、もう永遠に悪道に転転しない、決して退くことのない境地に置かれるのです。

仏の衆生を念ずる心は、何ものにも妨げられることなく苦難の真つ只中にある衆生に届き、さとりに歩みを確実にしてくださるというのです。

いま、幸せな身と感じている人も感じている人も、お経のことばを素直に聞かせていただきましよう。聞くとは、いただくということ。聞くとは、いただくということ。

【寺灯雑記】

○千葉組仏教婦人連盟の研修会が開催

7/2

コロナウイルスの感染によって、長らく中止が続いていた千葉組仏教婦人連盟みのり会の研修会が4年ぶりに開かれ、中原寺からも19名が参加しました。

この日は日本の伝統芸能である浄瑠璃により親鸞聖人と妻・恵信尼さまのご生涯を、また演劇を通して詩人金子みすゞさんのご生涯を学びました。

文章でしか味わう事が出来なかったそれぞれの人生を感じ取ることが出来る、みのある研修となりました。

○今年も盛況！ファミリーパーティー

7/30

記録的な暑さが続いている今年の夏ですが、中原寺の夏の風物詩ともいえるファミリーパーティーが開催され、小さいお子さん連れを含め多くの方がご参加くださいました。

まずは劇団「やまいも」による人形劇で幕開け。子どもにもわかりやすいストーリーと繊細な動きで喜怒哀楽を表現する技術に観客もすっかり魅了されました。二本の演目で、人形劇の魅力をたっぷり伝えていただきました。

次に登場してくださったのは、日本笑いヨガ協会代表の高田佳子さん。この暑さで外出することも少なくなり、笑うことも少なくなりました。会場中に「ワッハッハ」の笑い声が響きました。

最後は白熱のビンゴ大会。この時ばかりは

皆さん童心にかえって、ビンゴカードを握りしめて自分の番号が呼ばれるか、真剣モードで、大いに盛り上がりました。  
また、昨年に引き続き出店されたキッチンカーも好評をいただき、レモネードやかき氷が火照った体を冷やしてくれました。  
暑いなかお手伝いくださいましたかた、本当にありがとうございました。



【法要・法座のご案内】

◇孟蘭盆会法要並びに全戦没者追悼法要

・八月十一日(金・祝) 午前十時

おつとめ \*「重誓偈」

\*「仏説阿弥陀経」

讃仏歌 「み仏に抱かれて」

法話 大江和正師

(築地本願寺 王子布教所)

☆お盆

亡くなられた先人たちのご恩に感謝し、あらためて思いを寄せるのがお盆である。

親鸞聖人は仰せになる。

「願土にいたればすみやかに

無上涅槃を証してぞ

すなはち大悲をおこすなり

これを回向となづけたり」

浄土に往生された方々は、如来の本願力によってすみやかにさとりをひらき、仏と

して大いなる慈悲の心をおこす。そして直ちに迷いのこの世に還り来て、私たちを念仏の一道へ導こうと常にはたらかれるのである。

仏の国に生き生まれたいかれた懐かしい人たち。仏のはたらきとなって、いつも私とともにあり、私をみまもってください。

このお盆を縁として、すでに仏となられた尊い方々を偲びつつ仏恩をよるこび念仏申すばかりである。

〔拝読 浄土真宗のみ教え〕

暑い日々が続きますが、どうぞお気をつけて参詣お聴聞ください。

\*尚、お寺の本堂で個別にお盆の一座経をご希望されるかたは早めに日時をご予約下さい。

○親鸞セミナー(浄土文類聚鈔を学ぶ)

※八月二十六日(土) 午後二時

※今月は子育てサロン(パンダっ子)はお休みです。

○婦人会法座

※九月二日(土) 午後一時

「御文章に学ぶ」

(五帖第五通)―信心獲得章―

【八月の掲示板のことば】

「あなた」が大切だ

誰かがそう言うてくれたら  
それだけで生きてゆける